



総会と記念講演を開催5月26日 ぱれっとJOYOにて ”住まいの断熱と健康”を 窓博士・高橋秀直さんと一緒に学びました 全ての議案を全員で採択

5月26日（日）午後1時から”窓博士”の高橋秀直氏を招いて2024再エネ・省エネ講演会を城陽市の男女共同参画施設ぱれっとJOYOで開催しました。テーマは住まいの断熱と健康。高橋さんはe c o ット宇治で活躍、窓断熱窓騒音環境対策協会代表理事をされています。

昨年12月に京都府地球温暖化防止活動推進センターでの研修でお会いし、今年の3月には宇治で行われたe c o ット宇治の講演会に本会理事メンバーが参加したこと等、今回の記念講演会講師としてお招きした経過などを紹介してお話に入りました。

日本の断熱は先進国中最も遅れている

ご紹介いただきました高橋です。断熱と健康のお話をしていきますがまず初めに、日本の窓はアルミサッシでつくられている、これが世界的には独特です。またガラスも1枚ガラスではないですか？これは戦後復興や高度成長期に住宅を大量に生産しなければならぬ事情があり大量生産が可能なアルミサッシが使われたことが原因、いまだに日本のスタンダードになっています。夏の暑さや冬の寒さを我慢して過ごすことは健康に大きなマイナスです。

諸外国ではサッシに「樹脂」を使っています。日本で使われているアルミは樹脂の100倍も熱を伝えやすく、欧米では使われていません。ガラスも金属皮膜が入ったLow-E複層ガラスが使われています。夏の熱さを家の中に取り入れれない、冬場は部屋の暖気を外に出さない、サッシとガラスの組み合わせが日本とは全く異なります。

全国平均では68%の家が全て一枚ガラスです、全て二重ガラスの家は15%にすぎません。大阪府の統計（h30年 一社トグライブ・ホ）では一枚ガラスの家はさらに増えて78%、二重ガラスは全国平均の半分7%となっています。京都もほぼ同じです。西日本は寒い冬の時期が短いのでこのような傾向となっているようです。それがいろいろと問題をはらんでいると思います。

窓は熱の通り道なんです。夏は窓から熱が71%も入ってきます。冬はその反対に48%の熱が窓から逃げていきます。窓からの熱を上手にコントロールできれば省エネや節電につながるばかりでなく健康な暮らしの第一歩となります。



講師の高橋さん

ヒートショックリスクは夏の熱中症以上

冬に入浴死が多いことは知られています、ヒートショックリスクは夏の熱中症以上です。浴槽内やお風呂場・脱衣場などで無くなった方をご存知の方はおられませんか？（多くの方が手をあげられる）浴槽内死亡の統計はないのですが、消防庁の救急搬送データ（換算値）



断熱の体験

先にもお話をしましたが、冬は窓から48%の熱が逃げていきます。夏は71%もの熱が入ってきます。ドイツやイギリスなどの欧米諸国では「あたたかい家に住むことは人権である」との考えが当たり前になっています。国によっては既定の室温を保てない建物を賃貸に出すことが出来ないと言う場合もあります。WHO（世界保健機構）は冬場の最低室温を18℃以上にするを強く勧めています。お昼は18℃以上でも夜から朝にかけては18℃下回っているご家庭が多いのではないのでしょうか。日本の住まいは“夏を旨とすべし”と昔の人は言うておられますが、そろそろ「冬は寒いもの」「朝晩は寒いもの」との認識を改める時に来ているように思います。

では熱中症の10倍ぐらいになると言われています。私の事務所は宇治の徳洲会病院の隣にあります。毎日何台もの救急車が出入りしています。夕方になると台数が増えている気がします。高齢者は夕方、5時から7時頃にお風呂に入る方が多いからではないかとの話を聞いたことがあります。また、日本は暖房を夜は入れていない人が多いですね、「もう寝るので、ストーブは切りましょう」という家庭が多いと思います。そうするとお布団の中は30度ぐらい、トイレなどで起きて廊下に出ると一気に室温が下がって8度位になります、身体にはこの温度差が大きなダメージとなります。

断熱で免疫力アップ？

窓の断熱をひと工夫すればエコで節電が出来、快適で健康な暮らしができます。断熱することでエネルギーの消費も少なくできて省エネにつながります。エネルギーを無駄に使わなくてもよくなる訳です。アルミサッシや一枚ガラスでは結露も発生しやすくカビによる喘息などを引き起こす源ともなります。私の経験ですが、賃貸のアルミサッシ・一枚ガラスの家におりました頃、子どもたちがアトピーと喘息に悩まされていました。親として何とかしたいと思い、断熱性の高い家を造り、引っ越して数カ月で悩みが解決しました。今、断熱（防音もそうですが）にこだわってお話をしたり、ご相談に応じている原点がここに 있습니다。温度変化や騒音から解放されることで身体が受けるダメージが軽減され、免疫力があがるのだらうと思っています。

断熱性能に優れた窓ガラスを取り付けたり、交換することによって住宅の断熱・結露対策に高い効果が期待できると思います。注意してほしいことは断熱で2重窓にしたら防音もしっかりできると思いがちです。断熱と防音は仕組みが異なりますので何をメインにするのかなどにより材質や施工方法が変わります。実際の断熱工事の際は施工業者さんとよく相談してください。

住宅省エネ2024キャンペーン

別のスタッフの方からは、窓リフォームに「住宅省エネ2024キャンペーン」が紹介されました。2050年カーボンニュートラルの実現に向けての国（環境省・国交省）の補助制度、補助金がありとのこと、また城陽市の補助金も活用できるそうです。（制度の利用には制限があります）また、人気のある補助制度なので昨年度は途中で予算切れとなったそうです。早めに申し込むか、翌年度にも同じような補助制度が続くだろうとの見込みで施工

をずらすこと等注意が必要とのことです。

暑さ寒さ対策だけでなく、騒音の防止にも窓のリフォームは役に立つとのことで持参された、二重窓などのサンプルで音を聞いたり、どのくらい熱を遮断しているのか参加された方々がかわるがわる手をかざして「全然違う」、「静か！」などの驚きの声があがっていました。

断熱の必要性、正しい知識を身につけ“めざせ医者いらず”の暮らしを学んで、お家にぴったりの断熱を一緒に学んでください、と高橋さんは締めくくっていました。

講演後の質疑では窓断熱の工事をした、工事費は補助金が入って半額程になったので驚いているし、家もすごしよくなった。また、高齢者はこれからどのくらいこの家に住めるか分からないなどの理由で良いとわかっているにもかかわらず工事に至らないのではないかなどの懸念も出されていました。

第12回通常総会を開催

講演のあと、同じ会場で第12回総会を開催しました。

総会は委任状を含め43名の参加で成立を確認して、1号議案2023年度事業報告を杉浦副理事長が報告、2023年度決算を古家野理事長・関根理事が報告しました。昨年度の主な活動としては4回目のLED電球の無料交換会を実施したことやおひさまニュースの発行、京都府・京都市がすすめている「京都0円ソーラー」の講演を行ったこと等です。この中で、これまでLED電球の交換会を文化パーク・青谷コミセンなど4回開催してきました。



議案の説明を行う古家野理事長一助になるとの報告もありました。また、随時ではありますがホームページの更新を行っていること、各号機の返済実務は確実に実施しているなどがあります。

城陽市への要望・提案・再エネ・省エネの実現状況のお尋ねなどの事業があります。そして2号議案の今年度・2024年度の活動計画と活動予算が提案されました。今年度もLED電球の無料交換会の実施を企画していること、省エネ・再エネ講演会（今回の断熱と健康の話）の企画などを提案しています。予算規模はパネル設置を予定して923万5500円を計上していることなどが提案されました。

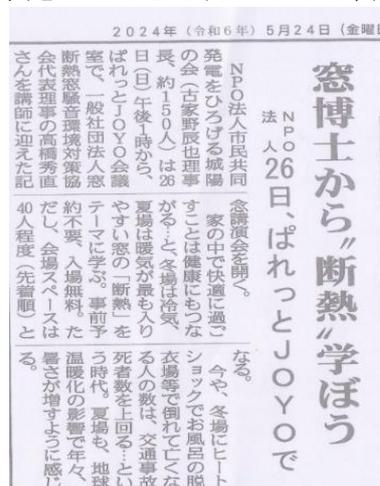
会計監査報告については草深監事から4月29日に監査を行い「適正に執行運用されている」との報告がありました。全ての議案は会計監査報告も含め全員の賛同で、今年度の活動方針などを決定しました。

今年度のゼロ円システムの概要を次頁（4p）に掲載しています。これまでの太陽光発電に加えて蓄電池のセットや蓄電池だけのゼロ円システムも紹介していますので、周りの方に広めて下さい。（写真は三ツ橋理事が撮影しました）

講演の参加呼びかけの記事（洛タイ 5/24 付）

そして白熱電球などを505個以上回収し、LED電球を387個普及していて、推定値ではありますが、CO₂を22tカットしていること、節電量は4.8万/kWhに上り、4kWのパネルを設置しているご家庭であれば11軒分に相当することが改めて報告されました。積極的に太陽光パネルを設置していくことは会の大きな柱ですので、この追及は常に行っていますが、間接的な節電・ネガワットにつながる活動も、無駄な電力を使わず

に快適な暮らし・持続可能な社会実現の



あなたの屋根におひさま発電を

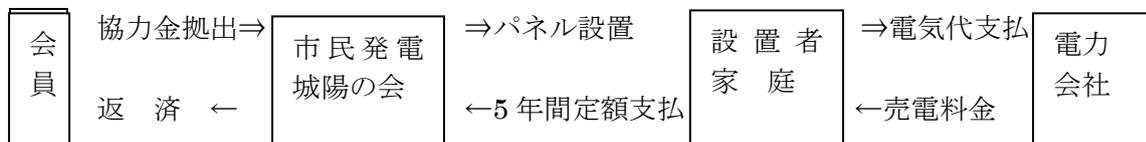
！初期費用ゼロ円！燃料費ゼロ！温暖化効果ガス排出ゼロ！
エネルギーの地産・地消、地球と地域に、家計にやさしいソーラーパネルを

個人宅おひさま発電ゼロ円システム 2024

脱原発、温暖化防止のため、再生可能（自然）エネルギーの普及に貢献したいけれど、自宅に太陽光発電パネルを設置する初期費用の負担が大きすぎると考えておられた方々にはうれしい仕組みです。

*2013年の法人設立以降、12基、累計出力66.49kWに到達しました。

<個人宅おひさま発電ゼロ円システムのイメージ>



<2024年度の応募概要>

- ①城陽市及び近隣市町村の会員に募集。
 - ②屋根材が太陽光パネルの荷重に耐えられ、雨漏り等の恐れがない。
 - ③電力会社との受電契約（予定含む）があり、系統連系ができる。
 - ④5年継続返済可能な方。
- ・募集期間 2024年5月26日~2024年11月30日まで



画像はG*ロー*パ*エコイノベーションジ*ヤパン様より

支払期間は5年間です（税込）。

- ・設置費目安（一面設置例）
- | | | |
|---|-------------------------|--------------|
| A | 太陽光発電 3.48kW | 年額 210,720 円 |
| B | 太陽光発電 4.35kW | 年額 229,560 円 |
| C | 太陽光発電 6.96kW | 年額 331,320 円 |
| D | 太陽光発電 3.48kW+蓄電池 5.6kWh | 年額 563,280 円 |
| E | 太陽光発電 4.35kW+蓄電池 5.6kWh | 年額 579,840 円 |
| F | 太陽光発電 6.96kW+蓄電池 5.6kWh | 年額 662,640 円 |
| G | 蓄電池 5.6kWh | 年額 397,560 円 |
- *設置面数や瓦種類や足場、パネル機種により、変動します。

*太陽光発電と蓄電池を同時設置の場合（上記D,E,F）は基本額1万円に合わせて、
2024年度は太陽光1万円/kW上限4万円、蓄電池1.5万円/kWh上限9万円
合計上限14万円の城陽市補助金があります。近隣自治体もほぼ同様、詳細は問合せ下さい。

*その他、各会員の事情やニーズに合わせて、個別の相談に応じますのでご連絡ください。

- ・手続きの流れ ①見積申込 → ②設置場所調査 → ③見積説明 → ④契約
→ ⑤事業計画認定 → ⑥パネル設置 → ⑦送電会社への連系契約 → ⑧発電開始

<2024年5月26日<NPO法人市民共同発電をひろげる城陽の会 問合せ先 0774-55-4190>